

## 令和7年度 第1回南予南部交通アクセス向上検討会 議事録

日 時 令和7年7月28日(月) 13:30~15:10

場 所 南予地方局 7階 大会議室

### 1 開会

事務局 : ただ今から、令和7年度第1回南予南部交通アクセス向上検討会を開会する。

中川会長 : 本協議会の会長を務めさせていただいている、愛媛県交通政策室長の中川です。昨年度、本検討会を立ち上げたところだが、本年6月に新たな委員の方々にご参画いただき、本日は全体で集まる最初の会合となるので、よろしくお願い申し上げます。今年度は、3つの実証事業に取り組む。7月からはJR予土線と宇和島自動車の乗車券の相互利用を可能とするモーダルミックス実証実験を始めており、また、8月1日からは、電動シェアモビリティサービス導入の実証実験が始まる予定。今後、予土線へのWi-Fi環境整備の実証も控えている。このような事業を実施しながら、委員の皆様と意見交換をし、南予南部地域自らがデザインする地域公共交通の実現に向けて共創してまいりたいと考えているので、忌憚のないご議論をいただくようお願いする。

### 2 令和7年度事業について

中川会長 : 本検討会は公開で行うことを了承いただきたい。

議事(1)「令和7年度事業について」、事務局から説明する。

事務局 : ※【資料1】により、令和7年度事業等を説明

中川会長 : 事務局の説明を補足する。今年度の実証実験事業は国庫補助金を活用しており、原則、継続実施は認められないので、今年度の取組みを基に今後どうしていくのかも検討していただきたい。併せて、モーダルミックス実証事業の現況を報告する。

事務局 : モーダルミックス実証事業について、7月1日から17日までの集計で、利用人数は延べ144名。このうち128名が通学定期、10名が通勤定期、4名が乗り放題等乗車券により、宇和島バスを利用している。また、バス定期券所有者がJRを利用したのは、7月22日午前までの集計で延べ7名。これまでの全体の延べ利用人数は、昨年度並みから、わずかに減少している。

中川会長 : 1日当たりの利用状況は昨年度並みから、やや減とのこと。ただいまの事務局の説明について質問等はあるか。

大内課長 : モーダルミックス実証事業の最新の状況を補足する。昨年度から微減の理由として(宇和島自動車)は、宇和島南中等教育学校が今年度から新入生の募集を停止しているため、その影響が考えられる。

末光副会長 : モーダルミックスは私も利用させてもらった。運転手も慣れた様子で、スムーズに利用することができた。多くの人に利用していただきたい。

### 3 多様な分野の交通ニーズについて

- 中川会長 : 議事(2)「多様な分野の交通ニーズについて」。今回、行政や交通事業者だけでなく、様々な分野の方々にご参加いただいている。どのような交通ニーズがあるかご意見いただくとともに、挙げられた意見に対する解決策や事業化の可能性、また考えられる課題など、幅広く意見交換したい。
- 谷脇委員 (市立宇和島病院) : 当院は平日7時から開院しているが、受付は8時半から。直近1週間の1日当たりの利用者数は777名。8時から9時の1時間で240名の来院があり、ピークの時間帯となっている。駐車場の平均利用数は来院者数と変わらないので、ほとんどの方が車で来ているものと考えられる。外来は7割が60歳以上。船を利用する方からは、船の出発時間に合わせて帰らなければならないといった相談を受けることがある。病院・バス・航路の時刻を調整してくれたら、というニーズはある。市立宇和島病院は地域医療支援病院の承認を受けており、地域の医療機関と協力し診療を行う。複数診療科を受診している患者が、一方の診療科で当院での診療に至らない軽症となった場合、地域の医療機関での受診をお願いするため、医療機関の間をスムーズに移動できる方法があればよいのではないかと思う。
- 松村アドバイザー : かかりつけ医への移動の確保は市町間での取組事例を共有しながら、何より利用者の方々に情報が行き届いているかという点にも留意する必要がある。
- 鬼北町 : 北宇和病院やかかりつけ医への移動の確保について、要望の声はある。
- 愛南町 : 町営でコミュニティバスを7路線運行しており、特に西海地域の方を中心に、病院等への移動に利用されている。また、80歳以上の方、又は70歳以上80歳未満で自宅から路線バス等の乗降地点まで300メートル以上離れている方にタクシー補助券を交付している。
- 松野町 : 65歳以上の方に年間24,000円のタクシーチケットを交付しているが、町域を超えて利用できないため、そのような場合は、町域を超える時点で一旦メーターを落とし精算処理が行われているのが実態である。
- 太場委員 (松野町社協) : 車を運転しない又はできない人たちにとっては、移動の問題は、私たちの想像以上に切実な問題となっている。バスやJRの昇降場所までの移動が大変と言われる高齢者の方が多くいる。地域によっては、コミバスは便が少なく、土日の運行がないなど不便、買い物で荷物が増えた帰路には、特に不便といった声がある。また、各交通機関の乗継ぎについては時間のロスが生じるほか、時刻表がバラバラなため仕組みが複雑といった声もある。タクシーチケットの話があったが、制度の周知が行き届いていない、せっかく申込みをしても上手く利用できていない方もいる。
- 中川会長 : 乗継ぎの不便さの解消に向けては、時刻表の連携を検討することを考えると、GTFS(公共交通機関の時刻表等に関する世界標準のオープンなデータ形式)を整備することが一つの取組みになり得ると考えられる。
- 松村アドバイザー : フレイル予防について取り組んでおられているか。
- 太場委員 : サロンなど地域で住民が交流する場をもっているが、事業としては社用車等での送迎まではしていない。
- 松村アドバイザー : 公共交通の利用はカロリーを消費するので、健康のためにもよい。サロンや会議の時間を決めるときに、公共交通機関の時間を考慮してはどうか。
- 平野委員 : 全校生徒246名のうち114名46%がJR利用。7時から8時、16時から17時にニーズ

(北宇和高校) が集中するが、現在のダイヤでは、宇和島方面について近永駅17時31分発を逃すと19時31分発まで待つ必要があり、生徒の安全面でもよくない。朝も部活動等で早朝の活動をする生徒の利用が見込まれる始発便が宇和島駅5時46分発・近永駅6時19分着では早過ぎるのが実態。ダイヤ改正を受けて、朝のショートホームルーム後と1時限目間の休憩時間、清掃と次の授業開始時間の間の休憩時間を10分から5分に短くするなどして、終業時間を15時20分となるよう20分繰り上げたが、生徒へのアンケート結果を見ると、教室移動や授業の準備に余裕がない状態などかなり無理が生じている。また、交通機関の不便さを理由とした宇和島市内からの入学志願者の減少を懸念している。モーダルミックスが恒久的に制度化されて、高校生がシームレスに移動できるようになるとありがたいと思う。

中川会長 : 例えば、この時間のダイヤが何分ずれるとよいといった意見はあるか。今すぐ答えの出る話ではないが、今後のダイヤ改正の際の参考にしてもらえることを期待。

平野委員 : 15時40分に終業できることが一番都合がよいので、16時くらいに近永駅を立つ便があると理想的だと思う。

中川会長 : モーダルミックスの実装に関してご意見もいただいたが、各市町の考えはどうか。

宇和島市 : 減便・ダイヤ改正を補完するという意味で、モーダルミックスは有効な手段と認識。

松野町 : 今年度事業に国庫補助を活用しているという説明があったが、モーダルミックスをこれからも続けていくためには、各市町の負担になるため、財源の話を含めて検討を進めなければならない。

鬼北町 : 来年度も継続して実施できればよい、という話は内部でもしている。継続する場合も、現状の紙の調査票ではなくデジタル技術を活用するなど、効率化を図ることが必要と思う。

中川会長 : 国庫補助の場合は原則継続実施ができないと説明した点について少し補足すると、昨年度のモーダルミックスは、国費を活用せず事業費を県費で対応したという背景がある。取組みを継続させていくためには、今後の課題や方法等について話し合う必要がある。

松村アドバイザー : モーダルミックスはこれからも続けられるようぜひ検討してほしい。今は高校生の利用がメインなのかもしれないが、今後は地域の方々の利用、需要の拡大というものも考えるべき。

中川会長 : モーダルミックスに限っては、今後、対象メンバーを絞って検討を進めた方がよいと考えている。

関根委員 (Umidas) : 愛南町には鉄道も高速道路もなく不利なエリア。私自身、東京から5年前に移住し、地域おこし協力隊を経て(一社)Umidasの社員となったが、バスの乗継ぎ時刻表等もなく、愛南町までの案内に苦労している。今年7月には新しくホテルが開業したが、連休中には予約が埋まるなど、町を来訪する需要はある。宇和島バスや愛南町が委託運行しているあいなんバスなどを活用し、町内だけに限らず周遊バスマップなどを作ってほしい。聞くところでは、南宇和高校生が愛媛大学の授業で、あいなんバスを使った観光ルートを作って大学生に体験してもらうことをしているようだ。住民のバス利用も大事だが、町民以外の方が町内の観光施設、宿泊施設、飲食施設を移動できるようになれば、それぞれの利用頻度が高まると考える。

松村トバヱ- : バスマップなど、1枚もので移動範囲を案内することは重要。えひめ夏旅なんよのチラシに南予へのアクセスの案内があるが、情報が不足していると感じる。つまり、観光地に行くために何を使ってどのくらい時間がかかるのかを示さないと、という点で残念。このような内容をまとめる組織が必要。

中川会長 : 県の取組みについては、関係部署で情報共有させていただく。

愛南町 : 町としても観光地への移動については課題と考えているが、町が運行するあいなんバスは主として地域住民の買い物や通院に利用されているという現状もあり、運転手のマンパワー的にも観光分野にも手を広げていくことは難しいと認識。

中川会長 : 愛南町の観光アクセスの現状等を見ても、この南予南部地域で GTFS データの整備が有効ではないかと思料。

窪委員 : 予土線について、今回パターンダイヤを導入したのは、効率的な運行を求めているも（JR 四国）の。ダイヤは皆さまの意見を踏まえて考えていきたいので、よろしく願います。

大内課長 : 生活路線と観光路線は時間帯や行先など正反対の関係にあると考えており、単純に（宇和島自動車）全部を動かすのは難しい。

宇和島市 : 観光誘客を図ることが重要と思っている。旅行者は限られた時間内に効率よく目的地を周りたいというニーズがあるため、モデルコースを設計し、場所や周遊方法、時刻をセットに提供できる仕組みがあれば理想と考える。

中川会長 : これまでの意見をまとめると、今後の検討事項として、①モーダルミックス実装に向けた検討、②バスマップや時刻を一覧できる情報提供、③観光誘客にどう取り組むか、④ダイヤの見直しに際して地元の意見を参考にさせていただくこと、といった点になるかと思うが、そのような認識でよろしいか。

（肯定）

#### 4 その他意見

中川会長 : 全体を通して、ご意見等はあるか。

松村トバヱ- : 観光面の話があったが、県では意見集約をどこが担うのか。

末光副会長 : 旅南予協議会がひとつの受け皿になる。

#### 5 閉会

事務局 : 以上で、本日の南予南部交通アクセス向上検討会を閉会する。